



# いっぺいといっぱく

市長のまちづくりにかける想いを市長の語り口でお伝えします。  
市HP「によぜがもん」もぜひご覧ください。

## Vol.84 まず、やってみる

長久手市では、1月末から2月末まで、コロナ禍で生活が苦しくなり、明日、食べることが難しい方に食糧をお渡しし、あわせてお困りごとでも聞かせていただくことで、必要な相談窓口につなげる「食の支援」を市内4カ所の地域共生ステーションと福祉の家、市役所で行いました。

きっかけは、大阪市において68歳母と42歳娘が、分譲マンションで餓死していたという新聞記事を読んだことです。2人とも胃が空っぽの状態、冷蔵庫には味噌などの調味料も残っていなかったそうです。私は、コロナ禍でこの長久手にも、食べるものがなく、「助けて」と言えずに困っている人がいるはずだと思い、職員に対して、何ができるのかを考え、すぐ始めるよう指示しました。誰も経験したことのないコロナ禍だからこそ、前例にとらわれず、今までにやったことがないことができると考えたからです。

指示を出してから2日後、職員から「地域共生ステーションを拠点に食糧を配ります」と報告がありました。私が「いつから始めますか?」と尋ねると、職員は「いろいろと調整が必要なので、少し時間がかかります」と言いました。「明日、食べるものがない人がいるかもしれない。すぐに始めるように」と再度、お願いしました。

指示から1週間後、「食の支援」が始まりました。行政では、制度設計に時間をかけ、一旦作った制度を変えるのは難しいことがほとんどです。しかし、今回は、少しでも早く支援をお届けするために、細かいルールを決めていない段階でスタートし、随時、改善していくことにしました。職員の提案で、福祉関係の部署だけでなく、ほぼ全職員が、1度は地域共生ステーションに出向き、この事業に関わることになりました。職員だけでなく、地域共生ステーションで働く会計年度任用職員からも改善策の提案があり、その都度、変更をしました。民間企業では当たり前かもしれませんが、これまで市役所では、細かいルールを決めず、「まず、やってみる」という方法で事業をしたことがほとんどありませんでしたので、職員は苦勞したと思います。今回をきっかけに「まず、やってみる」という職場風土を市役所内に作っていきたくと考えています。

しかし、今回の「食の支援」の情報が、必要とするすべての方に届いていたとは言えません。特に若い世代の単身世帯に情報を届ける難しさを感じました。市民の皆さんにお願いです。市役所がすべての方に声掛けはできません。ご近所に目を向けていただき、もし、お困りの方がいらっしゃれば、「市役所に相談してみたら?」と声を掛けていただきたいと思います。身近に相談できる場所に地域共生ステーションを加えることで、市職員と相談にあたる専門職、地域の皆さんが連携し、すぐに解決は難しくても、寄り添い、見守り続けられる地域づくりを、皆さんと一緒に進めていきたくと考えています。

ふれあい つながり みんなが楽しむまちづくり  
こんにちは! 西小学校区まちづくり協議会 検索 です。

◆令和2年度は感染拡大予防のため、運営会議を中止とし、皆さんのご意見を伺う機会が減ってしまいました。来年度に向けて話し合いたい地域の課題や、活動団体の悩みなどがありましたら、まちづくり協議会にお話してください。お待ちしております。

◆西小学校区まちづくり協議会役員立候補  
2021年3月15日(月)午前9時～  
2021年3月19日(金)午後5時まで  
西小学校区共生ステーションで受け付けます。  
※詳しくは、下記までお問合せください。

☎0561-64-5331 西小学校区共生ステーション  
nishi.no.machikyo@gmail.com

市が洞 市が洞小学校 イメージキャラクター  
http://ichigahora.sakura.ne.jp/ (協議会HP)

■協議会活動に参加してみませんか。  
現在は協議会の活動も思うように進んでいませんが、こうした時だからこそ私たちは、「コロナ後のまちづくり」も考えてみたいものです。  
地域を知る皆さまの参加により、それぞれの地域の課題を掘り起こし、それを持ち寄って、協議会活動の企画、実施などにつなげていくことができれば、いい地域づくりになるのではないのでしょうか。  
地域の皆さまの活動メンバーとしての参加を募集します。参加の方法などお問い合わせは、協議会事務局まで。

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間  
365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

